

いのちのリレー 骨髄提供を経験して

日本で非血縁者間の骨髄移植や末梢血幹細胞移植を必要としている患者さんは、毎年少なくとも2,000人を数えます。今回、骨髄バンクドナーに登録され、実際に骨髄提供を経験された古池区の黒澤祐哉さんにお話を伺うことができました。

◆ドナー登録をしたきっかけ◆

20歳代で献血をしたときにたまたま一緒にできると言われたので、軽い気持ちで登録をしました。登録後、3か月くらいは「移植したらテレビに出たりするかな」と、軽く考えていました。その後1年くらいすると、登録したことを考えなくなっていました。



▲骨髄提供を経験した黒澤さん

◆骨髄提供をするにあたって考えたこと◆

今回、骨髄提供の話を受けたとき、移植コーディネーターに、家族にも確認するように言われましたが、「絶対やろう。」とっていました。ドナー登録をした直後であつたら話を受けたか分かりません。自分自身に家庭ができ、家族との幸せな生活を送っている今だからこそ「協力したい」と思いました。移植を待つ人の気持ちになって考えたとき、自分の普通の生活を少し我慢するだけで、一人の命が救えるかもしれないと思ったからです。移植コーディネーターからは、自分以外にも何人が候補者がいるので、適合したからといって必ず移植を行うわけではないなど、最期まで心のケアを続けてくれました。

◆骨髄提供を経験して考えたこと◆

骨髄提供は、みんなの協力があつてこそその制度だと感じました。骨髄の採取をするにあつての事前検査や入院費などの必要経費は移植を受ける人が負担するとのことでした。しかし、事前検査は医師の休憩時間などに実施していて、医師の件費はボランティアでやっていたことを知りました。その他、病院や医療スタッフの善意によりとても手厚い対応をしてもらいました。ドナー、移植を受ける方、医療チームが一体となつて、まさに“いのちのリレー”をしているなと感じました。

ここまで、多くの人に支えてもらい、「あとは、自分が手術台に乗るだけだ。」といました。実際に手術台に乗ったときはさすがに緊張しました。しかし、麻酔から覚めると採取は終わっていました。骨髄提供の話が来てから半年ほどの月日が経っていましたが、目が覚めて家族の顔を見たとき、「自分の役目は終わった。今日からはいつもの日常生活に戻ろう。」といました。

◆みなさんに伝えたいこと◆

移植を受けた方が今どうされているかは分かりませんが、「ありがとう」と言われることを望む気持ちは全くなく、モノの見方が変わるくらいの貴重な経験をさせてもらったことに感謝しています。まさに、命の尊さを感じた時間でした。

また、私が独断で決めて始まったことに、文句も言わずに協力し、支えてくれた家族にも感謝しています。

入院前にも3、4回の検査が必要になってくるため、「会社の理解や社会の理解をもっと深めていければ良いのにな。」といました。

骨髄バンクにご理解いただき、多くの方々がドナー登録し、さらには実際のドナーになっていただければ幸いです。「ドナー登録のしおり」は保健センターにもあります。

ドナー登録に際しての疑問点は、日本骨髄バンク（TEL：03-5280-1789）へお問い合わせください。



わだい咲き撮り

おめでとうございます

全国大会で好成績を収めました

第28回全国専門学校ロボット協議会で優勝した越生自動車学校の奥泉魁斗さん（2年）と高橋光登さん（1年）、3位の同校江沢尚紀さん（2年）、第2回プレコフーズ杯 インスタ映えする肉料理コンテストで準グランプリを受賞した清和学園の高田匠海さん（2年）と神尾優太さん（2年）が1月20日、新井町長に結果を報告しました。



▲越生自動車学校と清和学園のみなさんと新井町長

一昨年は4位！去年は3位！今年も大健闘！

どんぶり王選手権大会

2月2日、朝霞県土整備事務所駐車場で第8回北朝霞どんぶり王選手権が開催され、越生町の有志団体「おごせ 愛かもよ」が参加、出店しました。梅干しを混ぜて炊いたご飯に、柚と煮込んだ豚肉をのせた「梅×柚子 おごせの豚丼」が出品され、全24チーム中3位と健闘しました。



▲「おごせ愛かもよ」のみなさん
300杯が完食しました

日ごろの成果を披露しました

消防団の出初式

1月12日、鳩山町中央公民館で西入間広域消防組合消防団出初式が開催され、団員による点検や放水訓練などが実施されました。また、西入間広域消防組合に新しく配置された梯子車と救急車も披露されました。



▲越生消防団の行進の様子



▲宮田愛心長ちゃん



▲廣澤花玲ちゃん



▲岡崎和心ちゃん



▲笠原穂香ちゃん

1歳のお誕生日
プレゼント
1月生まれ